

あなたの「強み」を記入して下さい。 また、入社後、どのように仕事で活かされますか?

私の強みは「チャレンジ精神」です。少し難しいかな、と思うことにも目標を立て、達成できるように努力し続けています。語学留学をしていた際、語学の習得はもちろん、ですが「現地現物で文化や習慣を学ぶ」という目標を立て生活していました。これを達成するために、ホストファミリーと積極的にコミュニケーションをとるようにしたり、現地コミュニティに参加するようにしていました。最初は語学力不足で理解に苦しみましたが、日々改善点を見つけ努力し続けたことで理解を深めることができました。この他にも 1 人旅行や韓国語勉強などの未経験のことにもチャレンジするようにしています。私はこの強みを、日々の業務で壁に当たっても、チャレンジをし続け、突破し、常に成長し続けてゆきたいと考えています。

学業、ゼミ、研究室などで取り組んだ内容

私は、国際教養学部のドイツゼミに所属し、ドイツ文化を学んでいます。その中でも、ドイツの働き方について関心が高く、ドイツ留学で実際に見たことなども参考にしながら、日本とドイツの働き方の違いについて理解を深めています。日本人とドイツ人は真面目で勤勉であり、よく似ているとたびたび言われるものの、働き方に関しては全くといっていいほど真逆です。今後も、働き方の拝啓にあるドイツ人の考え方や、どのような文化が関わり、なぜこのような違いが現れているのかに着眼し、深掘りしていきたいと考えています。

自己 PR

私の強みは、主体性と粘り強さです。私は、二年間続けているアルバイトで、ナポリピッツァを提供しています。ピッツァ作りには、スピードや正確さなどあらゆる要素が必要でしたが、早く一人前として認めて貰いたいと考え、出勤日以外にも練習をするようにしました。しかし、生地や薪の状態は、日々違うため、状況に応じて考え行動する必要がありました。そこで私は、二つのことを行いました。一つ目は、あえて状態の悪い生地で練習をすることです。これにより、提供用の生地を扱う際に正確さをあげることができました。二つ目は、迅速な対応力の向上を目指すために混雑する時間帯に出動するようにしました。その結果、窯の状態を見ながら状況にあった素早いピッツァ提供ができるようになり、現在一人でピッツァ作りを任されています。この経験から、自分のやり方を切り開くこと、努力し続けることの大切さを学びました。

学生時代に最も打ち込んだこと

大学2年時に約4ヶ月ドイツに留学し、留学プログラムの一環で、和食文化を伝えたことです。現地の和食理解度を知るため、語学学校の生徒と職員を中心にアンケートをとったところ、日本の家庭料理が寿司であるなどの間違った和食文化が伝わっている事に気がつきました。私は、少しでも正しい和食文化を伝えたいと思い、クラスメートに向け和食についてのプレゼンテーションを行うことにしました。語学力不足で日本独特の表現を十分に伝える事ができない場面もありましたが、何よりも楽しみながら和食について知ってほしいと考え、箸の練習や日本とドイツの寿司の違いをクイズ形式にして出題し、参加型のプレゼンテーションを行いました。その結果、和食について深い理解と関心をもって貰うだけでなく、日本語も積極的に使ってもらえることが多くなりました。この経験から、自ら考え、工夫し積極的に行動する大切さを学びました。

学生時代に力を注いだこと(例えばスポーツ・文化サークルなど)

チームで優勝目指し活動したことです。そのために信頼関係が必要だと考え、後輩に素直に自分の弱みを打ち明け、補うためには相手の強みが必要と伝え、自信を与えつつ関係を築きました。練習中チームの集中が散漫していたとき、私がチーム目標の優勝というワードを発信したことにより、後輩たちは鼓舞され、後輩達も優勝に対する思いを発信しチームのベクトルを揃えることができ結果優勝することができました。この経験から<信頼関係は周りを巻き込みそして集団を率いる力となること>を学びました。

自己PR

私の強みは<好奇心旺盛>であり、それを実現するための<行動力>があることです。留学生との交流を通して他国の人々の国民性に興味をもち、カナダへのワーキングホリデーを決断しました。アルバイトを通して特定の国の人たちとは交流をもつことができました。しかしもっと他国の人たちを知りたいと思い、自ら調べ、"Language Exchange"という場を見つけました。そこで様々な国籍の友人を作り、ディスカッションを重ねることで他国のことを知るだけでなく、日本がどのように認識されているのか知ることができました。

学生時代に力を注いだこと(例えばスポーツ・文化サークルなど)

私は「留学」に力を注ぎました。4ヵ月間アメリカに語学留学をしました。訪日観光客が増加している現在、異文化を学び、理解し、受け入れることが重要だと考え、語学だけでなく文化や習慣を現地現物で学ぶと目標を立て取り組みました。そのために、ホストファミリーと週1回教会へ通ったり、現地学生のコミュニティに参加するなどしていました。これらを通じ、理解が深まったのと共に、「日本の良さ」を再認識することができました。

自己PR

私はチャレンジすることが好きです。少し難しいかな、と思うことにも目標を立て達成しようと努力します。失敗した時には何が足りなかったのか振り返り、改善し、それをバネに再チャレンジします。他にも1人旅行や他言語の勉強など、未経験のことにも興味を持ち、積極的に取り組むようにしています。「常に挑戦し、成長し続けたい」という軸のもと、自分の可能性を広げ、沢山の経験を社会人になってからも活かしてゆけるように、これからもチャレンジし続けてゆきたいと思っています。

学生時代に力を注いだこと(例えばスポーツ・文化サークルなど)

ドイツ留学をした際に和食に関するプレゼンテーションを行ったことです。ドイツでは和食に対する関心が高いものの正しい和食文化は伝わっていませんでした。私は、少しでも正しい和食文化を伝えたいと考え、語学学校のクラスメートに向け、プレゼンテーションを行いました。語学力不足で日本語の独特な表現を十分に伝えられないこともありました。

しかし、何よりもクラスメートに楽しみながら和食について知って貰いたいと考え、箸の練習やクイズを交え、参加型プレゼンテーションを行いました。その結果、深い理解を得られるだけでなく、日本語を使ってもらえる機会を増やすことができました。

自己PR

私の強みは、主体性と粘り強さです。私は2年間続けているアルバイトでナポリピッツァを提供しています。ピッツァ作りには、スピードや正確さなどあらゆる要素が必要でしたが、早く一人前として認めて貰いたいと考え、出勤日以外にも練習するようにしました。しかし、生地や薪の状態は日々違うため、状況に応じた行動をする必要がありました。そこで私は、あえて状態の悪い生地で練習を行い、混雑する時間帯に出勤することで正確さや迅速な対応力の向上を目指しました。その結果、釜の状態を見ながら、状況に合ったピッツァ提供ができるようになり、現在、一人でピッツァ作りを任されています。この経験から自分のやり方を切り開く大切さを学びました。

学生時代に力を注いだこと（例えばスポーツ・文化サークルなど）

「先輩トーク」のメンバーとして、2年次から後輩の英語学習支援に取り組んでいます。この活動では、国際英語学部の上級生が新生に英語でプレゼンテーションを披露しますが、そのために1年次の冬休みと春休みは毎日英語学習に費やしました。3年次までにTOEICの点数は1年次より200点以上伸びましたが、それ以上に先輩や後輩と協力して一から何かを作り上げることができるという面で大きく成長しました。現在は4年生として、試行錯誤しながら2・3年生を指導しています。

自己PR

「何事も全力で」が私の中学時代からのモットーです。私は3年次の8月から9ヶ月間、アメリカに交換留学をしていました。留学先は中京大学と提携を始めたばかりで、1期生としてパイオニア精神を持って留学しましたが、現地のアメリカ人ばかりの環境にめげそうになったことが何度もありました。しかし、諦めずに勉強し続けた結果、留学先ではオールAのGPA3.8を達成することができました。私は昔から途中で物事を投げ出すのが嫌いで、友人や後輩からはよく、「責任感が強い」と言われます。また、これからどんなことでも粘り強く乗り越えていける自信があります。

学生時代に力を注いだこと(例えばスポーツ・文化サークルなど)

1ヶ月ほど語学力を高め、異文化交流をするためにカナダへ留学に行ったことです。私はもともと消極的で自分から行動することが苦手でした。留学中の授業でのプレゼンテーションや単語ゲームをすることで徐々に慣れ、積極的に英語を使ってコミュニケーションを取るようになりました。また自分からも働きかけないと成長できないと思い、ショッピングやイベントに誘い交流を深めていきました。留学を経験したことで普段のアルバイトで外国の方に尋ねられても臆することなく対応できるようになり、自分から行動することの大切さが学べました。

自己PR

私の強みは相手の目線になって考え、気配りができることです。私は大学入学時からスーパーでアルバイトを始め、主に生鮮食品の品出しや消費期限チェックをしています。お客様によっては荒い口調や商品を雑に扱う方がいます。そのような方に対して落ちついて笑顔で対応し、他のお客様が利用しやすいようこまめに整頓します。また、私の担当外で消費期限切れの見落としがあった時には、お客様の健康やお店の信頼のために年上の方のミスであってもしっかり指摘するようにしました。今ではミスも減り、お客様に褒められたり、感謝を言われる機会が多くなりました。この経験を通して色々な方面、立場から物事を考えることを学びました。

学生時代に力を注いだこと（例えばスポーツ・文化サークルなど）

アメリカへの交換留学に力を注ぎました。充実した留学生活にするため、「授業で最高評価を取得する」と「友達を 100 人作る」という目標を掲げました。勉強面では効率的な勉強方法を心がけながら、毎日 10 時間勉強しました。また、交流面では様々な国籍の人と過ごすことも大切であると考え、積極的にイベントやクラブ活動に参加しました。その結果、2つの目標を達成できました。この経験から、困難なことがあっても目標を持って取り組めば結果はついてくることを学びました。

自己 PR

私は目標に向かって絶えず努力できます。大学入学時の苦い経験から、TOEIC900 点を掲げ英語力向上を目指しました。授業や講座での勉強に加え、毎日 5 時間自習するなど英語漬けの日々を送りました。この結果、TOEIC の点数も上がり、1 番上のクラスに入ることができました。しかし、ここで満足してはいけないという強い気持ちを持ち、さらなる勉強のため 9 ヶ月間の交換留学を経験しました。現地ではさらに英語漬けの生活を送り、TOEIC970 点を取得することができました。この強みを活かし、何事にも高い目標を持って取り組みたいと思います。

学生時代に最も本気で打ち込んだことを教えてください。

私が最も本気で打ち込んだことは留学です。4 ヶ月間アメリカで語学留学をしていました。語学の習得はもちろん、「現地現物で文化や習慣を学ぶ」という目標を立て、生活していました。文化や習慣を学ぶために、なるべく長い時間ホストファミリーと過ごすようにし、週に 1 回教会にも通い、現地コミュニティーにも参加するようにしていました。最初は語学力不足で理解できず、もどかしい思いもしましたが、日々改善を続け、語学力をつけたことで理解を深めることができました。うまくいかない時は、目標を思い出し、努力し続けたことで達成できたと考えています。これからも強い気持ちを持ち、何事にも本気で取り組んでゆきたいと思っています。